

# 令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 国語科

## 改善の重点

- ① 単元で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、資質・能力を育成するための言語活動を位置付けた単元を構想すること。単元構想に当たっては、各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどのような評価規準に基づいて評価するのかを明らかにすること。
- ② 単元における評価方法（評価材）を工夫するとともに、それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえ、「Bと判断する状況」の例及び「Cと判断する状況への手立て」の例を想定すること。

## 1 設定理由

中学校学習指導要領第2章第1節国語の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。」とある。国語科においては、単元を見通して、生徒が言葉に着目し言葉に対して自覚的になるよう学習指導の工夫を図ることや言語活動を充実させることが不可欠である。

そこで、育成すべき資質・能力を確実に身に付けさせるための改善の重点を2点設定した。①では、単元で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、資質・能力の育成に適した言語活動の位置付けを挙げた。さらに、資質・能力の育成は、単元を通して実現されるものであることから、各時間の学習活動と評価が、設定した資質・能力の育成にどのようにつながるかを明らかにすることも求めている。これは、授業改善においてポイントとなる「各時間の指導と評価が単元のゴールである資質・能力の育成に確実につながっていること」を踏まえたものである。

②では、評価方法（評価材）の工夫と「Bと判断する状況」の例及び「Cと判断する状況への手立て」の例を想定することを挙げた。評価を指導の充実につなげるためには、それぞれの実現状況を把握できる評価方法（評価材）の工夫と適切な教師の見取りが欠かせない。併せて、全ての生徒に、確実に資質・能力を育成する観点から、「努力を要する状況」の生徒に対する手立てを想定しておくことが必要であるとしている。

## 2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める観点から、作成する学習指導案には、単元を通して行う言語活動に加え、各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか（※具体的な生徒の姿で設定すること）等を整理した単元の指導と評価の計画を必ず記載すること。
- ②どの生徒にも確実に資質・能力を育成する観点から、「Bと判断する状況」の例及び「Cと判断する状況への手立て」を想定すること。

(2) 参考とすべき資料

- ①「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（中学校国語編）  
[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_mid\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_kokugo.pdf)
- ②「早わかり！単元計画の作成手順（～中学校国語～）」  
<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2205293.pdf>